



株式会社ヒカリ様に対する

『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』第1回モニタリングの実施について

百十四銀行（頭取 森 匡史）は、2024年3月29日（水）に実行した丸亀支店取引先 株式会社ヒカリ（香川県丸亀市田村町 代表取締役 西森 浩史）向け『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』に対し、第1回目のモニタリングを実施しましたのでお知らせします。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスにおけるモニタリングでは、融資実行時に発行したポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書に掲げる、お客さまのマテリアリティ（重要課題）を解決するための取組方針と、その達成度合いを測定する KPI（重要目標達成指標）に対し、進捗状況の確認と、KPI 達成に向けた各種支援を実施します。本件モニタリングを通じて、お客さまのサステナブル経営を一層推進します。

当行は、今後も地域金融機関として、お客さまの SDGs や ESG への取組みを支援してまいります。

記

■企業の概要

会 社 名 株式会社ヒカリ
所 在 地 香川県丸亀市田村町 1238
業 種 建設工事業

【サステナブルな取組み】

当社は「人材育成・顧客第一・地域密着」の精神を創業時から大切にし、地域に住まう人々からはじめに声がかかる「ファーストコールカンパニー」になれるよう、地域のニーズや課題に取り組む事業を多数行ってまいりました。人として大切な「正しさ」や「思いやり」を持ち目標に向かってひたむきに努力し続けること、お客様視点を持ち、お客様の幸せな人生のお役に立つ商品・サービスを提供すること、そして、豊かな地域社会の実現に貢献できる永続的な企業を目指し、当社の持っているマンパワーと技術、ノウハウをさらに高めてまいります。



※株式会社ヒカリの「ポジティブ・インパクト・ファイナンス第1回モニタリング報告書」については別紙をご参照ください。

以 上

株式会社ヒカリ

ポジティブインパクトファイナンス

第1回モニタリング報告書



2025年2月28日

目次

1. 株式会社ヒカリの企業概要.....	2
2. 目標達成に向けた進捗状況	3
3. 総評.....	5

1. 株式会社ヒカリの企業概要

企業名	株式会社ヒカリ
設立	1954年2月25日
代表者名	代表取締役社長 西森 浩史
資本金	9,600万円
従業員	56人（2025年1月末）
事業拠点	本社（香川県丸亀市田村町1238） 高松支店（香川県高松市伏石町2130-4）
関連事業	(株)四建プラント（電気・給排水設備工事業） (株)アルベジオ（保育園、放課後児童クラブ等）

2. 目標達成に向けた進捗状況

項目	内容
インパクト	施工工事の環境対応～サステナブルなまちづくり
内容・対応方針	ZEH認証取得住宅・ZEB認証建物の受注強化 低燃費車両の導入や設備更新によるエネルギー消費量の削減 リサイクル建材の導入促進・産業廃棄物の排出削減
KPI	①2030年までにZEH水準住宅受注率を100%必達 ②2030年までに産業廃棄物の発生を2020年比50%削減する
KPI進捗状況	①現時点におけるZEH水準住宅の受注割合は50% 現在計画している案件はZEH水準を標準仕様になっている 太陽光を搭載したZEH案件は1件受注、引き合いは4案件中3案件 ②現在も現場で産業廃棄物の分別を行ってきたが、混載、木材、スクラップだけでなく段ボールも分別し処分を行うように努めている

項目	内容
インパクト	福祉施設建設・訪問看護事業の強化～いつまでも笑顔あふれるまちに
内容・対応方針	訪問看護件数の増強と要介護度の維持・改善 福祉施設運営の支援の質の強化
KPI	2030年までに訪問看護月間利用者数を2023/3期比130%増加 (2023/3期:月間100名)
KPI進捗状況	ケアマネジャーとの連携を強化し、報告書等のやり取りを徹底している 利用者様との信頼関係を築くとともに、利用者家族のケアも行っている 技術面はもちろん、精神的なケアにも力を入れており、利用者から高い評価を得ている

項目	内容
インパクト	建築物の強靱化～安心して住み続けられる地域づくり
内容・対応方針	「旧耐震基準住宅」の耐震性能向上 災害対応力強化型公共施設建設への関与
KPI	2030年までに住宅耐震リフォームの年間受注件数10件を達成する(2023/3期:年間3件)
KPI進捗状況	2024年1月からの引き合い9案件あり、受注4件、失注1件、計画中4件の状況 昨年の能登半島地震前と比べて、引き合いが増えている

項目	内容
インパクト	人材育成と人材定着の強化～安心して活躍できる職場づくり
内容・対応方針	1on1ミーティングによる組織内コミュニケーション活性化とエンゲージメント強化 メンター/人事評価制度の再構築による社員一人一人のモチベーション向上 業務見直しによる特定業務の属人化解消と業務効率化
KPI	①離職率7%未満を毎年維持する ②2030年までに1人1時間当たりの営業利益を2020年比30%向上させる
KPI進捗状況	①2025年4月から完全週休2日制としその年は115日の公休を決定、従業員へ周知済み 前年までは105日だったため、従業員としては仕事とプライベートのメリハリができモチベーションアップに寄与するものと考えている 職階別の勉強会など、会社側からの研修やコミュニケーション機会の提供が上記数値を安定させる要素になっているものと考えている ②見積書提出時に、プロの目線で創意工夫・提案等を盛り込んだことで、お客様に付加価値を与えた結果、小工事の利益率2%アップを達成 施工時には、無駄を省き生産性の向上に努め、小工事の利益率が2.5%以上向上

項目	内容
インパクト	様々な主体との連携～共に目標を持ち成長し続ける
内容・対応方針	協力企業と組織する「安全協定会」にて安全管理・災害予防対策を推進 安全パトロールの強化 最新施工法の勉強会・協会員同士のスキル共有会開催 適正価格での受発注と施工単価の適正化
KPI	2030年までに協定会安全大会（事故・災害ゼロに向けた優れた取組みを表彰する大会）での新規表彰者をのべ10社・10名誕生させる
KPI進捗状況	令和6年度安全大会では優良企業表彰を6社と5S優良企業表彰を5社受賞、うち新規表彰業者1社誕生、優良職長表彰を6名受賞 継続的に取引を行い日々の安全衛生活動に協力的であったため新規表彰対象社となった 以前までは月に一度の安全パトロール時に現場周辺清掃活動を協力安全企業と行っていたが、加えて毎週の一斉清掃時に職長を交えて現場周辺の清掃活動を行うようにした 清掃時着用の専用ベストもロゴ入りのものを新調し、一体感を醸成した

3. 総評

早期の目標達成に向け、インパクトへの取組みを当初よりも強化しているものが複数見受けられた。ZEH水準の住宅標準化に向けた動きに加え、太陽光発電設備を備えた狭義のZEH住宅の受注数増加を目指した営業活動も活発に行っており、地域のカーボンニュートラル推進のリーダー的存在になっている。介護事業においては、関係各所との連携を強化し、利用者への提供サービスの充実を行うことで、利用拡大を図っている。

働き方についても、休日数増加などの働き方改革に加えて、付加価値を意識した業務指導や協力企業とのコミュニケーション強化を行い、安全で、生産性の高い職場づくりを進めている。

百十四銀行も、ビジネスマッチングを通じた環境負荷軽減につながるサービスの紹介や、福利厚生支援、当社との住宅ローン連携などの各種支援を行い、当社のマテリアリティへの取組みをさらに加速させていきたい。